

CASBEE神戸ver.3

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築（新編）2016年版 使用評価ソフト：CASBEE神戸ver.3/CASBEE-SD_NC_2016(v.3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	神戸学院大学有瀬キャンパス1号館建設工事	階数	地上3F・地下0F
建設地	神戸市西区伊川谷町有瀬字山東518	構造	S造
用途地域	第1種中高層住居専用地域他	平均居住人員	1,279 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,880 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2026年1月 竣工	評価の実施日	2026年1月28日
敷地面積	141,781 m ²	作成者	市川 雅也
建築面積	2,797 m ²	確認日	
延床面積	6,876 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 2.3 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	76%
③上記+②以外の	76%
④上記+	76%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安を示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

音環境	4.3
温熱環境	2.7
光・視環境	4.4
空気質環境	3.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

機能性	4.1
耐用性	3.1
対応性	3.6

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.0

生物環境	3.0
まちなみ	3.0
地域性	3.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

建物外皮の	5.0
自然エネ	4.0
設備システ	4.5
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.9

水資源	3.4
非再生材料の	4.3
汚染物質	3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

地球温暖化	3.9
地域環境	3.5
周辺環境	3.1

3 CASBEE神戸の重要項目		
バリアフリー計画		
Q-2/1.1.3 バリアフリー計画	建築物の耐震性等	まちなみ・景観への配慮
★★★★★ 4.0	★★★★★ 3.0	★★★★★ 3.0
配慮の概要 建築物移動等円滑化基準をすべて満足している他、インクループ対応として、オールシェンダー対応トイレの設置をしている。	配慮の概要 耐震構造 構造形式：鉄骨造、耐力壁を有するラーメン架構 耐震壁には竹中式波形鋼板耐震壁を採用。波形加工により鋼板壁の弱点である座屈耐力を高めた耐震壁とし、大変形時にもコンクリート壁のようなひび割れの発生がなく、しなやかに地震のエネルギーを吸収可能としている。	配慮の概要 住宅街に対して敷地境界から15m以上セットバックをして圧迫感を軽減。建物ボリュームを分割することで、住宅街のボリュームに溶け込むよう配慮。また敷地境界から見える位置に建築物緑化を行うと共に、セットバックした空地は広場として地域の方にも開放可能な場を設けた。
その他の配慮事項		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照された

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)
神戸学院大学有瀬キャンパス1号館建設工事

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_

スコアシート		竣工段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.4
Q1 室内環境					0.40	-	-		3.6
1 音環境				4.3	0.15	-	-		4.3
1.1 室内騒音レベル		室内騒音レベルの目標値:40dB (A)		4.0	0.40	-	-		
1.2 遮音				4.8	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能		サッシ遮音等級はT-2以上		5.0	0.30	-	-		
2 界壁遮音性能		Dr=45以上		5.0	0.30	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		Lr=50より良い		5.0	0.20	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		Lr=55以下		4.0	0.20	-	-		
1.3 吸音		床と天井に全面的に吸音材を採用		4.0	0.20	-	-		
2 温熱環境				2.7	0.35	-	-		2.7
2.1 室温制御				4.0	0.50	-	-		
1 室温		室温設定は夏期26°C・冬期22°C		4.0	0.60	-	-		
2 外皮性能		外壁は断熱材を施し、開口部はLow-eガラスを採用		4.0	0.40	-	-		
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-		
2.2 湿度制御				2.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式				1.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				4.4	0.25	-	-		4.4
3.1 昼光利用				4.6	0.30	-	-		
1 昼光率		昼光率:2.5%以上		5.0	0.60	-	-		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 昼光利用設備		ハイサイドライトの採用		4.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策				4.0	0.30	-	-		
1 昼光制御		ブラインド及び庇によりグレアを制御		4.0	1.00	-	-		
3.3 照度		平均照度は500Lx以上		4.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御		細かな照明制御が可能で、端末で調整が可能		5.0	0.25	-	-		
4 空気質環境				3.9	0.25	-	-		3.9
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		全面的にF☆☆☆☆の建材を採用		4.0	1.00	-	-		
4.2 換気				3.0	0.30	-	-		
1 換気量				3.0	0.33	-	-		
2 自然換気性能				1.0	0.33	-	-		
3 取り入れ外気への配慮		外気取入れ口は排気口と異なる方位、かつ6m以上離隔		5.0	0.33	-	-		
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-		
2 喫煙の制御		全館禁煙		5.0	1.00	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.6
1 機能性				4.1	0.40	-	-		4.1
1.1 機能性・使いやすさ				4.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-		
3 バリアフリー計画		建築物移動等円滑化基準項目を満足		4.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				5.0	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		天井高:3.2m以上		5.0	0.50	-	-		
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-		
3 内装計画		コンセプトに基づく内装計画の実施		5.0	0.50	-	-		
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		廃棄物スペースの確保、清掃用コンセントの設置等		4.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30	-	-		3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.6	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		タイルカーペット等の耐用年数20年以上の内装材を採用		5.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		厨房用ダクトにガルバリウム鋼板ダクトを採用		5.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		2種類以上にB以上を採用し、Eは不採用		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-		
3 電気設備		無停電電源設備の採用等		4.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	平均階高:3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.1以上	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	仕上げ材を痛めず通信配線の更新・修繕が可能	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.0
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.9
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			5.0	0.20	-	-	5.0
BPI _m =0.58							
2 自然エネルギー利用			4.0	0.10	-	-	4.0
自然換気システムを採用							
3 設備システムの高効率化			4.5	0.50	-	-	4.5
[BEI][BEI _m] = 0.65							
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.9
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	
衛生器具の過半に節水器具を採用							
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.3	0.60	-	-	4.3
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			5.0	0.22	-	-	
基礎・基礎梁に高炉セメントもしくはフライアッシュセメント							
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			5.0	0.22	-	-	
床(ビニル床シート)、天井(岩綿吸音板)、床(OAフロア)							
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.22	-	-	
躯体と内装材は容易に分離可能で、かつOAフロアを採用							
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWP<50の断熱材を採用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮			3.9	0.33	-	-	3.9
CO ₂ 排出率:76%							
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止			5.0	0.25	-	-	
燃焼設備の使用なし							
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	十分な駐輪・駐車台数を確保	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周辺環境へ配慮した適切な照明計画の実施	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	